

DMO NAGASAKI REPORT

2026 年 6 月



一般社団法人

長崎国際観光コンベンション協会

Nagasaki International Tourism and Convention Association

目次

- 出張案内所の実績について
- 先駆的 DMO 実証事業：報告会開催
- 長崎さるく 20 周年記念事業 開幕
- おみやげ訴求プロモーション
- SDGs 平和ワークショップの実施
- MICE 開催におけるユニークベニュー

出張案内所の設置について<管理課>

長崎市の観光案内機能の強化のため、例年多くの観光客が訪れる 5 月に、主要観光地である眼鏡橋周辺において出張案内所（案内人 1 名）を設置しました。昨年度に実証実験を行った結果を踏まえて本格実施することとなり、現地での道案内・交通案内・次の訪問先の提案のほか、ハートストーンのある場所や周辺の寺と中島川に架かる橋との関係の説明、写真撮影への対応等、観光客の皆さまからの要望に丁寧に対応することで大変喜んでいただくことができました。次回は 11 月に設置する予定です。

【設置日】

令和 8 年 5 月 2 日（土）～31 日（日）のうち土・日・祝日 計 13 日間

【設置時間】

午前 10 時～午後 1 時（3 時間）

【実績】

設置日	対応件数
5/2（土）	29 件
5/3（日）	6 件
5/4（月・祝）	雨天中止
5/5（火・祝）	29 件
5/6（水・祝）	27 件
5/9（土）	13 件
5/10（日）	27 件
5/16（土）	15 件
5/17（日）	16 件
5/23（土）	9 件
5/24（日）	16 件
5/30（土）	21 件
5/31（日）	32 件
計	240 件 (平均 18.5 件)



先駆的 DMO 実証事業：報告会開催<企画課>

「市内観光事業者ヒアリング調査結果報告会」を開催しました

観光庁「先駆的 DMO」事業の一環として、令和 8 年 5 月 25 日（月）に「長崎市内観光事業者ヒアリング調査結果報告会」を長崎タクシー会館にて開催し、市内観光事業者や九州運輸局など計 27 名が参加しました。

「観光需要予測に係るプラットフォーム構築に向けた調査」では、（公財）日本交通公社 主任研究員 蛭澤俊典氏が、全国各地の PMS 連携事例を交え、長崎市における観光需要予測の課題や今後の提案を行いました。「インバウンド受入強化支援に係る市内事業者ニーズ把握調査」では、（株）ダイスプロジェクト ディレクター 坂井桂馬氏が、市内観光事業者のインバウンド受入の課題認識を共有しました。

令和 8 年度はこれらの結果を踏まえ、観光需要予測やインバウンド受入環境の強化に向けた実証事業を推進してまいります。



観光庁「先駆的 DMO」令和 7 年度調査事業



蛭澤 俊典
公益財団法人日本交通公社
主任研究員



坂井 桂馬
株式会社ダイスプロジェクト
コミュニケーションデザイン
チーフディレクター

長崎市内観光事業者 ヒアリング調査結果報告会

当協会は、観光庁の「先駆的 DMO」の選定を受け、令和 7 年度にはアンケートやヒアリング等を含む 2 つの調査事業を実施いたしました。調査の実施にあたり、市内観光事業者の皆様にはご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
このたび、調査結果につきまして、ご協力いただいた皆様に共有させていただきたく、「報告会」を開催いたします。ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

<令和 7 年度実施調査>
・観光需要予測に係るプラットフォーム構築に向けた調査（報告：日本交通公社）
・インバウンド受入強化支援に係る市内事業者ニーズ把握調査（報告：ダイスプロジェクト）

2026 5.25 [月] 14:00-15:30

場 所 長崎タクシー会館 4 階 大会議室（長崎市出島町 12 番 20 号）

対 象 市内観光事業者（宿泊事業者等）

参加費 無料

定 員 50 人（先着）

主催：一般社団法人長崎国際観光コンベンション協会（DMO NAGASAKI）
お問い合わせ：Tel. 095-823-7423（担当：高橋、森永、奥川）





開催案内チラシ

報告会当日の様子

長崎さるく 20 周年記念事業 開幕<地域連携課>

長崎さるく 20 周年記念事業がスタートしました

令和 8 年 5 月 23 日（土）、「長崎さるく 20 周年記念事業」のオープニングイベントを開催しました。当日は、市内で活動するまち歩き団体やガイドなど約 120 名が参加し、鉄橋からまちなかをパレードしました。式典では、長崎市長 鈴木史朗氏、長崎市議会議員 岩永敏博氏、長崎商工会議所会頭 森拓二郎氏、事務局スーパーバイザー 田上富久氏によるテープカットが行われ、長崎さるく 20 周年の幕開けを華やかに彩りました。

オープニングイベントの様子は、テレビ・新聞・Web メディアなど複数の媒体で紹介され、市民や観光客へ広く発信することができました。また、公式ホームページの開設や長崎駅、市役所での PR 展開などを通じて、長崎さるく 20 周年事業を広く周知し、さらなる盛り上がりにつなげていきます。

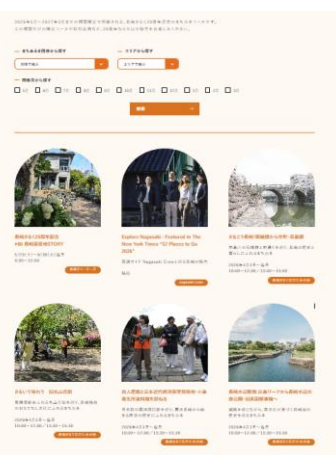
今後は 9 月以降を強化期間と位置づけ、西九州新幹線「かもめ」の開業を祝うイベントと連携し、11 月 3 日(火)には「長崎ウーマンズ・ウォークラリー（市民大さるく）」の開催、建築家や専門家によるまち歩きなど、多彩なプログラムを展開していきます。さらに、公式ガイドブックの発行や厳選モデルコースの追加、インフルエンサーを活用した情報発信などを通じて、市民・事業者・観光客がともに参加し交流できる「まち歩き交流都市・長崎」の実現を目指します。



パレードの様子



長崎市役所懸垂幕



公式ホームページ（コース紹介）

おみやげ訴求プロモーション<事業推進課>

おみやげは長崎観光の最終ランナー。より具体的に情報を発信！

DMO NAGASAKI では、公式観光サイト「travel nagasaki」において、「おみやげ」に関する検索が年間を通じて上位にあることから、旅マエから旅ナカにおける重要な情報であり、消費拡大にも直結するコンテンツと捉えていました。

そこで昨年度、長崎市観光政策課および商業振興課と連携し、既存のおみやげ（物産品）情報を拡充するとともに、長崎市ホームページ掲載情報を統合。「長崎銘品お土産ガイド」として「travel nagasaki」上に一元化し、訪問客の利便性向上と、おみやげの認知度向上・消費拡大を図るページへリニューアルしました。併せて制作した PR 動画とともに、3 月 10 日に公開しています。

また、長崎市総合観光案内所内では、Web サイト公開に合わせておみやげ展示コーナーを新設しました。来訪直後から長崎の多彩なおみやげに触れていただくことで、購買意欲の向上はもとより、観光マスターブランド「暮らしのそばに、ほら世界。」を感じていただける空間づくりにつなげています。



長崎銘品お土産ガイド

●Web ページのポイント

- ・従来のおみやげページは、購買に繋げるには情報量に不足がありました。今回のリニューアルでは、商品紹介や購入できる場所、季節ごとにおすすめの商品などの情報をより具体的に紹介しています。

●動画のポイント

- ・職人の手わざが際立つおみやげ 5 カテゴリーを選出した 30 秒の動画を制作しました。

●観光案内所展示コーナーについて

- ・5 カテゴリー約 20 品の展示を行うとともに、海外との交流から育まれた長崎の歴史も紹介しています。



SDGs 平和ワークショップの実施<営業課>

第 1 回 SDGs 平和ワークショップを実施しました

5 月 14 日（水）、修学旅行生を対象とした平和学習プログラム「SDGs 平和ワークショップ」の今年度第 1 回目を実施しました。本プログラムは、長崎での学びを通じて平和について主体的に考え、多様な価値観に触れながら対話する力を育むことを目的としています。

当日は「矢太樓」を会場に、練馬区立上石神井中学校の生徒 124 名にご参加いただきました。生徒の皆さまは 14 グループに分かれ、各グループに配置されたファシリテーターとともに、それぞれが考える「平和」について活発な意見交換を行いました。グループごとに話し合った内容については、時間の都合上、一部のグループのみとなりましたが、アウトプットの時間を設け、発表も行っていました。生徒の皆さまからは、一人ひとりの考えや思いが率直に語られ、随行された先生方からも「学校では見られない生徒の姿を見ることができた」と、大変関心を寄せていただきました。近年の教育現場では、生徒の主体性を引き出す学習方法が求められており、平和学習においても、こうしたワークショップ型のプログラムへのニーズが高まっています。

昨年度は、海外からの受け入れを含め、6 校・1 団体に実施いたしました。今年度は国内からの受入のみで、7 校・1 団体の実施を予定しております。6 月 3 日（水）までに、すでに 3 校 253 名の生徒の皆さまを受け入れており、秋には約 300 名規模の大型校 2 校の実施も予定しています。

今後も、長崎ならではの平和学習コンテンツとして、学校や関係機関と連携しながら、学びの質の向上と受入拡大を図ってまいります。



ワークショップの様子

MICE 開催におけるユニークベニュー<営業課>

MICE 開催時のユニークベニュー

ユニークベニュー（Unique Venue）とは、「特別な場所」という意味を持つ言葉です。学会や国際会議などの開催時に、開催地の歴史・文化・自然など、その土地ならではの環境や体験を感じられる場所で食事や交流の機会を提供する取り組みとして、近年注目されています。

具体的には、歴史的建造物、神社仏閣、城跡、美術館、博物館など、通常の会議施設やホテルとは異なる特色ある会場が活用されており、参加者に開催地の印象をより深く残す演出として取り入れられています。

長崎市においても、これまで地域の魅力を活かしたユニークベニューの提供に取り組んでまいりました。歴史や文化を感じられる空間での食事・交流は、参加者の満足度向上はもちろん、長崎市の魅力発信にもつながる重要な機会となっています。

5月25日（月）、国際会議「MORIS 2026」の関連イベントとして、約200名が参加するユニークベニューを出島ワーフにて開催しました。当日は参加者の約7割が海外からのお客様で、国際色豊かな交流の場となりました。海外からの参加者も多いことから、食事制限や文化的背景への配慮など、地元事業者の皆さまにご協力いただきながら、長崎に良い印象を持っていただけるよう受入態勢の充実に取り組んでおります。

7月には、長崎市の MICE 関連事業者（コンベンション・宿泊施設）の皆さまと、首都圏地区での MICE キャラバンセールス及び長崎 MICE 商談会を予定しております。引き続き、MICE 誘致に取り組んでまいります。



出島ワーフでの様子